＜令和７年度　研究事業報告＞

確かな学力を育む教育の推進

教育センターでは，９名の研究員が３つの部会に分かれ，各学校の教育活動に役立つ基礎的・実践的な研究を行いました。

【研究主題】
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業の構築
～すべての子どもの可能性を引き出す複線型の授業づくりを目指して～（２／３年次）

【研究内容】「複線型の授業づくり」
１　ねらいを踏まえた学習課題の提示
２　授業のねらいに合わせた複線型の授業の実践と検証
３　各教科等の特質を踏まえた複線型の授業の実践と検証

1　言語能力育成部会

(1) 研究成果

○　友達との交流や教師とのやりとりを意図的に取り入れることで，子どもが言葉を用いて表現し，言葉を大切にしながら思考を深める学びの場を実現することができた。また，子どもが主体的に選択・探究できる場面を設定することで，教科書の本文および資料に繰り返し根拠を求めながら考える姿が定着した。（内容３）

●　子どもがより主体的に作文を書くためには，総合的な学習の時間での調べ学習など，教科等横断的なカリキュラムの工夫を通して，書く活動における主体性を高める必要がある。（内容１）

(2) 担当研究員（３名）

2　情報活用能力育成部会

(1) 研究成果

○　「どのように解決したらよいか」ということを，対話を通して考えることができるようになり，主体的・対話的な学びができるようになった。本時では，対話の中で「もう一度話して」と伝えるなど，主体的に交流する姿が見られた。（内容２）

●　ペアやグループでの学び方が身に付いていることで，複線型の授業において学び方を主体的に選択できるようになるため，発達段階に応じて，段階的にどのように学び方を身に付けていくかについて検討する必要がある。（内容２）

(2) 担当研究員（３名）

3　問題発見・解決能力育成部会

(1) 研究成果

○　子どもが見通しをもって問題解決に向かえるよう導入の学習を丁寧に進めたことで既習事項と学習課題を結び付けながら進めることができたとともに，解決場面にスムーズに移行したことで，活発な交流につなげることができた。（内容１）

●　算数が苦手な子どもも自走できるよう，算数の基盤となる知識・技能の定着を図る必要があるとともに，単元の後半に探究の時間を設けるなど，子どもがより自分なりの課題をもって学習を進められるよう工夫する必要がある。（内容３）

(2) 担当研究員（３名）

詳細につきましては，南北海道教育センター研究事業
（アドレス　https://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2026011300036/）
を御覧ください。